

図書だより



令和3年もあと2週間。文化フェスタも無事終了しましたね。3年生の進路も順調に進んでいるように思います。インフルエンザにも注意が必要な季節になりました。体調管理に気を付けて、令和4年もいい年でありますように(^^♪

新着本紹介



星を掬う 著・町田そのこ
2021年本屋大賞受賞後第一作。
千鶴がDV元夫から逃げるために向かった「さざめきハイツ」には、自分を捨てた母親（聖子）がいた。他の同居人は、娘に捨てられた彩子と、聖子を母と呼び慕う恵真。普通の母娘の関係が築けなかった四人の共同生活は、聖子の若年性認知症が発症して……。



赤と青とエスキース 著・青山美智子
2021年本屋大賞2位受賞後の勝負作！
メルボルンの若手作家が描いた一枚の「絵画（エスキース）」。日本に渡って三十年、その絵画は「ふたり」の間に奇跡を紡いでいく……。仕掛けに満ちた五つの「愛」の物語。



ばにらさま 著・山本文緒
冴えない会社員の「広志」に初めてできた恋人は、冷たいバニライスクリームのように白い「ばにらさま」。日常の風景が一転するように、痛くて、切なくて、引きずり込まれる。6つの物語が照らし出す光と闇。



どうやら僕の日常生活はまちがっている 著・岩井勇氣
喉に刺さった魚の骨に悶絶するやいなや、スピーチを頼まれた同級生の披露宴をすっぽかす。地球最後の日に食べるものひたすら想像しながら、寅さんの映画に突然涙する…。あの不敵な笑みを浮かべながら、ハライチ岩井が平凡な毎日に一撃を！



同志少女よ、敵を撃て 著・逢坂冬馬
第11回アガサ・クリスティー大賞受賞作
第二次世界大戦時、最前線の極限状態にほうりこまれたソ連の女性狙撃手「セラフィマ」の怒り、逡巡、悲しみ、慟哭、愛が手に取れるように描かれた戦争物語。



かぞえきれない星の、その次の星 著・重松清
感染症がひろがり休校になってしまった春、こどもたちのために、こいのぼりが企んだのは……。 「こいのぼりのナイショの仕事」「こいのぼりのサイショの仕事」。夜空にちりばめた、11の小さな星たちの物語。



ミカエルの鼓動 著・柚月裕子
手術支援ロボット「ミカエル」を推進する心臓外科医「西條」と、ドイツ帰りの天才医師「真木」。難病の少年の治療をめぐる二人は対立。そんな中、「西條」を慕っていた若手医師が、自らの命を絶った。情報を手に入れたジャーナリストは、大学病院の闇に迫る。



大正浪漫 著・NATSUMI
「夜遊びコンテスト vol.2」大賞受賞作
令和と大正、時を超えた恋の行方は？「時翔」のもとに届いた不思議な手紙。大正時代を生きる「千代子」が書いたものらしい。思いがけず始まった文通で距離を縮めるふたりだったが、「関東大震災」をきっかけに文通ができなくなってしまった二人。その後は…

本の貸出期間は通常 2 週間ですが、25 日から冬休みになりますので、冬休み終了まで期間を延長します。どんどん借りてください。ただし、冬休みが終了したら速やかに返却すること。